

酒井さん6月議会

1. 地方創生に向けた取り組みについて

①地方創生ビジョンについて

千葉市としての「地方版総合戦略」および「人口ビジョン」の策定についての考え方などについて問いました。

②2020年東京オリンピック・パラリンピックの活用について

競技開催都市となったことを受け、行動計画の見直し方針を問うとともに、いかに本市としての地方創生に結び付けていくのかなどを問いました。

③京葉線とりんかい線の相互乗り入れ・直通運転について

先に実施された利用実態調査の結果概要及びその後の状況、今後の取組みなどについて質問。また、ホームライナーの試行運転などその可能性について問いました。

当局からは、「ホームライナー運行で使用する特急車両の確保が難しいものの、今後は普通車両を使用しての試行運行の可能性について、引き続き鉄道事業者と協議していく。」との答弁がありました。

2. 千葉市ビジネス支援センターについて

5月に静岡県富士市の産業支援センター・通称f-Biz(エフビズ)に行ってみました。中小企業・小規模事業者のための経営相談所「よろず支援拠点」の国モデルとなっている施設です。

千葉市ビジネス支援センターとほぼ同時期に開設されており、相談件数はもとより、実際の売上拡大や創業の実現において驚異的な数値をたたき出しております。(千葉市の約3分の1の予算で、相談件数は約2倍、創業実績が約8倍。事業所数は千葉市の20分の1。)

本事例に学び改善を求めるとともに、今後の取り組みを問いました。

当局からは、「エフビズの取り組みは、本市の中小企業支援策にとっても有益な参考事例になると認識している。今年度より、継続した支援を行う『中小・小規模事業者ニーズ対応型支援事業を開始し、課題となっている専門家による相談やコーディネート機能を強化するほか、引き続き支援体制の見直しを図っていく。』との答弁がありました。

3.子どもルームの待機児童解消について

千葉市では、学童保育の分野においては年々待機児童が増加傾向にあります。また、統一選の中でも、宮崎小をはじめとする蘇我地区からは早期の改善を求める声が多くきかれました。

事態の打開には、ルームそのものの増設や移転時の施設規模の拡大を進める以外にありませんが、放課後子ども教室の拡充や、地域の自治会関係者や地主さんなどにも相談を持ちかけるなど、これまでとは異なるアプローチの検討、執念をもった取り組みを求めました。

4. 県内指定廃棄物をめぐる長期保管施設の候補地選定について

一連の経緯、対応を問うとともに、以下の3点について主張致しました。

①県・市は主体性を！

候補地の選定手順や選定手法、「県内1箇所への集約処理とする」ことなど、既に過去2年半の中で計4回に渡る千葉県市町村長会議によって議論されてきた経緯があります。県及び市行政には、その一連の議論に加わってきたことを踏まえ、より主体性を持ち、どこまでも住民目線で事にあたることを求める。

②千葉県市町村長会議の議論は十分だったのか？

各県の市町村長会議では候補地の選定を進めるにあたっての条件設定として、「地域特性として配慮すべき事項」について協議されております。例えば宮城県の場合、年間50万人以上の観光客が訪れる施設を持つ行政区は対象外とすることが盛り込

まれました。しかしながら、千葉県では観光立県を掲げるわりにそうした議論は行われなかったとのことでありました。それ自体、十分な議論がなされなかった証左のように思えます。ちなみに千葉市では、幕張メッセや千葉神社などに年間1500万人以上の観光客が訪れております。

③千葉県の場合は排出自治体での継続保管が最も現実的！

私自身、(指定廃棄物が保管されている)千葉市の新港清掃工場や柏市を視察してまいりましたが、思った以上に厳重に管理されており、線量もさほどの数値を示していなかったことから、「果たしてこれらを無理に動かす必要があるのか？」というのが率直な感想でありました。千葉県の指定廃棄物は、他県と比較しても少数の自治体でのはいしゅつにとどまっていることから、排出自治体での継続保管が最も現実的と考えます。